

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1270号	氏名	草場 照代
論文審査担当者		主査教授	高木 正洋
		副査教授	相川 忠臣
		副査教授	関根 一郎
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、糸状虫感染幼虫における、宿主の皮内への侵入に係る走化性を総合的に吟味しようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 糸状虫は <i>B. pahangi</i> を用い、27 種に及ぶ動物の血清・血リンパに対する感染幼虫の寒天板上での行動を、Index of Chemotactic Activity により評価した。また、汗、尿に対する走化性、FBS 浸漬の影響も定量的に評価した。これらの研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 用いた全ての動物の血清・リンパは感染幼虫に対して高い CI 値を示した。糸状虫に対する誘因物質は多様な動物に非特異的に存在し、8 倍希釈後も有効であることが判明した。感染幼虫は汗、尿にも正の走化性を示し、FBS への浸漬により低下した走化性が、洗浄後回復することも確かめられた。糸状虫の宿主皮内への侵入は、鉤虫や糞線虫における経皮感染とは異なる機序をもつことを明らかにした。</p> <p>以上のように本論文は、糸状虫の経皮感染機序と走化性の精細な解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			